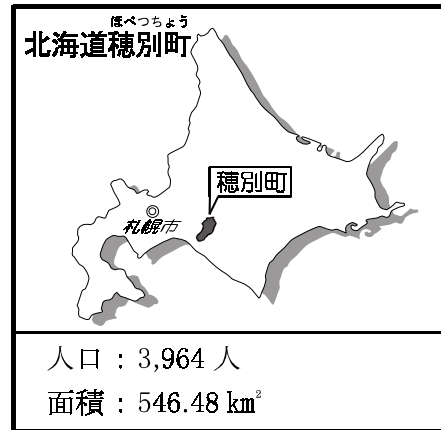


銀河鉄道の里づくり

- 生活環境全体の改善に向けた理想郷づくりの精神 -

1. 背景と経緯

穂別町は、札幌市から約 100km、苫小牧市から約 70km の場所にあり、新千歳空港駅から直行バスで約 1 時間（約 70km）、あるいは太平洋岸の JR 鶴川駅から路線バスで約 1 時間（約 30km）の距離に位置する。炭鉱の町だった夕張市の南に隣接し、穂別町もかつてはクローム鉱石や石炭の搬出で賑わい、現在 4 千人を切る人口も昭和 30（1955）年代には 1 万人を超えていた。



しかし、中心産業が鉱業から農林業へとシフトする中で、過疎化や高齢化の波は例外なく、この町にも押し寄せ、昭和 61（1986）年には町を通して海側の鶴川町と山間の日高町を結んでいた国鉄富内線が廃止された。富内は穂別町の市街からさらに 10km ほど北東に入った住民約 200 人（うち半分は知的障害者施設の関係者）の集落であり、町が寂れていくことに対する危機感は特に強く、鉄道の廃線は絶望感とともに恐怖すら感じさせたという。

集落の名前を冠した路線でありながら、廃止の日の式典は終点の町で開かれ、記念館も近隣の別の町に建てられることになったことから、富内の若い住民を中心に最後の汽車を見送るフェスティバルを自主的に開いたことが今につながる地区づくりの発端になった。フェスティバルをきっかけに住民たちが描いた地域の復興策は、戦後まもなく町（当時は村）の振興に大きく寄与した横山正明村長が目指した宮沢賢治の「イーハトーブ（理想郷）」づくりの考え方を活かし、富内駅舎と線路、構内を観光資源として残して、“銀河鉄道のまちづくり”を進めるといったものだった。

構想をつくった当初は、非現実的な夢物語として地区の年長者たちは批判し、行政側もほとんど取り合わなかったが、住民たちの熱心な働きかけにより、ついには町も政策として取り上げることとなった。それまでの自主的な集まりだった再開発協議会は学校や自治会、その他の各種団体などを入れた「銀河の里づくり委員会」（以下、委員会）へ改組され、行政はコンサルタントを派遣するなどして、平成元（1989）年に正式な計画とするための提言書が作成された。この提言が現在に至る活動の基本となっている。

2．具体的内容と特色

住民が独自に策定した最初の構想は観光振興の色合いが濃いものだったが、委員会として議論を重ねた結果、イーハトーブの考え方を豊かな暮らしのための基本的なアプローチとしてとらえ、生活環境全体の改善を目指す総合的なまちづくりに対する提言となった。行政はこの提言を尊重しながら、この地区における施策・事業を推進しており、これまでに以下のような事業を行ってきた。

- 宮沢賢治設計の花壇「涙ぐむ眼」の整備
- 冷泉を利用した高齢者生きがいセンターや公営住宅の建設
- 公衆トイレや消防団番屋の新築
- 富内駅舎周辺の公園整備（排水溝の設置、親水整備など）

これらは提言に示された精神を行政が事業として具体化しているものといえる。地区の下水道整備なども、生活環境の改善の一つとして、この提言に基づいた事業に位置づけられている。

委員会は住民から集める会費や行政からの公園管理の委託費などによる年間200万円程度の予算で運営されており、花壇の維持管理やイベントの開催などを具体的な事業としている。上記の公園整備にあたっては、1万㎡にも及ぶ芝張りをすべて住民がボランティアで行った。花壇の春の植栽は毎年地区総出で行う恒例の風物詩となっている。また、毎年9月14日（宮沢賢治命日の1週間前）にこの花壇周辺で開かれる「ほべつ銀河鉄道の夕べ」では、子どもたちの合唱や宮沢賢治の詩の朗読などが行われ、今では全国から賢治ファンが集まるイベントとなっている。

こうした住民の自主的な活動とこれに呼応した行政の事業推進はさまざまなところで評価されており、これまでに以下のような表彰を受け、その実績がまた住民たちの自信ややる気につながっている。また、副賞として受け取る褒賞金は委員会の厳しい財政運営の中では実質的な意義も小さくない。

- 宮沢賢治学会イーハトーブ賞（平成5年度）
- あしたの日本を創る会ふるさとづくり賞（平成6年度）
- 地域づくり団体自治大臣賞（平成11年度）
- 胆振支庁長表彰（平成11年度）

3．成果と効果

平成8（1996）年の「夕べ」は宮沢賢治生誕100年記念の行事として行われ、国からの

補助金も活用できたため、これまでよりも規模の大きなイベントとなり、2,000 人近い人が集まった。このとき、賢治研究家で俳優の故内田朝雄氏が自らの蔵書約 2,000 冊を町に寄贈、これを基にした「イーハトーブ文庫」という地域図書館も花壇の管理棟内につくられた（現在の蔵書は約 4,000 冊）。横山村長の村づくりを支えた詩人の浅野晃氏の資料室も併設され、地域の文化拠点にもなっている。

また、賢治ファンだけでなく、鉄道ファンの間にもネットワークが広がり、その交流の中で、活動の原点となった駅舎とその周辺や内部に残された設備が全国的にも貴重なものであることがわかった。例えば、構内の線路は大正年間にベルギーやドイツ、アメリカから輸入されたものが実際に敷設されたままに残されているきわめて珍しい例であるという。このため、駅舎を含めて、残された施設や設備全体を文化財として登録すべく、委員会メンバーは勉強会を重ね、平成 13（2001）年には有形文化財として国から認定を受けた。

文化財としての登録を果たした平成 13 年は富内線の廃線 15 周年にあたると同時に 21 世紀最初の年でもあったことから、残された線路で一日だけ S L を復活させようという構想が持ち上がり、「よみがえれ！汽笛」と題した募金キャンペーンを行った。キャンペーンでは、漫画家松本零士氏の賛同を得て、銀河鉄道 999 のイラストを描いたテレホンカードをつくり、2001 円以上の募金者に配布した。S L は松山市の市民団体の協力を得て、「坊ちゃん列車¹」が台風の中、はるばる四国から北海道まで輸送され、9 月 14 日には実際に構内の線路を走った。このときにも 2,000 人近い人が道内外から集まった。

4．問題点と対応策

平成 8 年と 13 年の 2 回の大規模なイベントの際には、宣伝効果も大きく、多くの一般観光客も集まったため、飲食店や宿泊施設が少ないなど、観光地としてのサービスの不足について苦情も寄せられた。しかし、当初は観光の振興に主眼を置いた構想だったものが、議論を繰り返すうちに生活環境全体の改善を対象とする構想に変化したという経緯もあり、委員会では観光だけのインパクトを狙った事業展開は今後とも考えていない。実際に平成 9（1997）年のイベントは規模を縮小して実施している。

賢治ファンや鉄道ファンとの息の長い、地道な交流が大切であると認識しており、議論を重ね、成熟させた基本方針に基づいているため、表面的な変化に流されない着実な活動となっている。町の担当者も、この活動の最大の成果は、地区住民が暮らし方の基本とな

¹ 明治 21（1888）年から 67 年間、松山から美津（後に高浜）まで運行。平成 13（2001）年 10 月から「道後温泉～市駅前～JR 松山駅前」を毎日運転。

る精神を共有することができたことではないかと述べている。

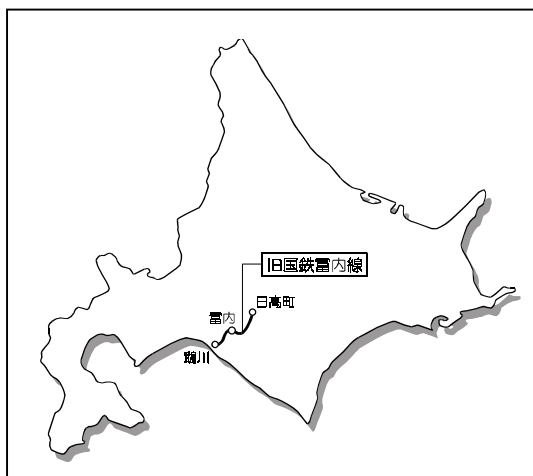
また、さまざまな住民が運営に関わる委員会形式になったことで、次第にそれまでのようなユニークな活動がやりにくくなったが、元々の発案者たちを中心とする「プリオシン倶楽部」という別働隊を設け、新たな企画や研究なども機動的に進められるように工夫している。

直面する最大の課題は高齢化である。地区住民全員が委員会の会員であるが、新たな住民が増えない中で高齢化によって会員も年々減少している。また、発足当初“若手”とされた当時の30代メンバーも50代になり、活動を続けていくためには世代交替が必要不可欠となりつつあるが、町全体が高齢化、過疎化する中で、この問題を解決する方策は簡単には見つからない。直接的な答えではないが、活動を推進するためのエンジンともいえる何らかのビジネスを立ち上げていくことが一つの方向性となり得るのではないかという意見が出されている。

5．今後の展望

鉄道と宮沢賢治を組み合わせながら、そのそれぞれについて研究し、大切にしてきた結果、それぞれが深い交流を生みながら、互いにその枠を広げてきた。富内駅の設備や機材が映画「鉄道員（ぽっぽや）」の中で利用されたことに加え、賢治研究家の俳優との交流が縁で“映画”という新たな資源の可能性も生まれつつある。

厳しい財政的な状況の中で、限られたメンバーで地域を育てていくためには、これまでの実績を活かして、内外のネットワークによるコミュニティづくりを一層進めていく必要がある。これまで行ってきたこうした活動を地道に続けながら、メンバーの高齢化や減少にも対応するため、活動を継続していくためのコミュニティ・ビジネスなどのコアになる事業を検討する必要にも迫られており、構想以来約10年を経過し、活動は転換期を迎えている。



旧国鉄富内線路線図



旧国鉄富内線富内駅



宮沢賢治設計の花壇「涙ぐむ眼」の植栽作業は、春の恒例行事。地域住民総出の作業で「お花見会」も開催。夏には全国から賢治ファンが訪れる。



毎年開催する「ほべつ銀河鉄道の夕べ」行事の平成 13 (2001) 年度は、「よみがえれ、汽笛」をテーマにクラウド型SL (「坊ちゃん列車」) を走らせた。会場全体を音楽劇で構成、演出し、全国から約 2,000 人のファンが集って交流した。